



キク編

病害虫注意報 2025年6月号



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

土壌病害

---予防と対策---

高温に伴い、各種病原菌による土壌病害が発生しやすくなります！

〈対策例〉 ①適正な水管理を行う ②遮光剤等による高温対策
③活着促進資材を使用 ④予防薬剤を使用する

萎れ症状等で根傷みの兆候がある場合は早急に酸素剤の使用など、根の回復に努めましょう！

FRAC	対象病害・使用目的	薬剤名	希釈倍数・使用量	処理方法
14	立枯病	リゾレックス水和剤※	500～1,000倍 3L/m ²	土壌灌注(生育期/5回)
4,11	立枯病 (リゾクトニア菌)	ユニフォーム粒剤※	18kg/10a	土壌表面散布 (定植時または生育期/3回)
32	発根促進	タチガレン液剤	1,000倍 5～10L/m ²	土壌灌注(挿し芽直後/1回)

※花き類・観葉植物登録

立枯病にはこれ！
おすすめです！



ユニフォーム粒剤

FRAC : 11,4
定植前 : 9～18kg/10a
全面土壌混和
(白さび病同時防除)

特長

- ▶定植前(白さび病登録)、定植時・生育期(立枯病登録)
→どのステージでも使用可能！
- ▶2種類の有効成分(アゾキシストロビン・メタラキシルM)で
立枯病【リゾクトニア属菌】を予防

今月のおすすめローテーション



品種、栽培条件、混用する農薬・資材によって薬害が発生する可能性があります。ご注意ください。

時期	RAC	対象病害虫	薬剤名	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	P02	白さび病	予 inochioキクツチャ粒剤	6～9kg/10a	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	予 アントラコール顆粒水和剤	1,000～2,000倍	発病前～ 発病初期	6回
	23	アザミワタ類・アブラムシ類・ハダニ類	inochioセイレーンフロアブル	2,000倍	発生初期	3回
消灯時	11	白さび病・褐斑病・黒斑病	予・治 メジャーフロアブル	2,000倍	発病初期	3回
	13	ミキキイアザミワタ・ハダニ類 ミキキイアザミワタ・材外コガ等	コテツフロアブル	2,000倍	発生初期	2回
発蕾時	21A, 39	白さび病・アザミワタ類 アブラムシ類・ハモグリバエ類	予 ハチハチ乳剤	1,000倍	発生初期	4回
	30	アザミワタ類・ハダニ類 材外コガ・ハモグリバエ	グレース乳剤	2,000倍	発生初期	2回
破蕾時	3	白さび病・うどんこ病	予・治 アンビルフロアブル	1,000倍	発病初期	7回
	5	アザミワタ類・ハモグリバエ類 材外コガ・イロカギンウバ	ディアナSC※	2,500～5,000倍	発生初期	2回

※花き類・観葉植物(りんどうを除く)登録

フーモン

有効成分が害虫をすばやく窒息死させます！
気門封鎖剤を利用して
他剤の使用回数を抑えましょう！



ハダニ類 1,000倍
収穫前日 回数制限なし

※高温時の使用注意
※混用不可薬剤あり

海藻サンバ

1,000倍 : 挿し穂浸漬処理、または葉面散布

- ▶コリンによる光合成促進と発根促進
- ▶海藻エキスによる発根促進
- ▶転流を促進



肥料登録番号
生第101491号